

【クリスマスカード】

季節は冬。今年もクリスマスシーズンがやってきました。当記念館には斎藤夫妻に宛てられた81点のクリスマスカードが残されています。今回ご紹介する“イッピン”はクリスマスカードで、そのほとんどが外国人から送られたクリスマスと新年の挨拶を兼ねたものとなっています。

年代がわかるもっとも古いものは、春子が通った東洋英和女学校の西洋教師一同から大正9（1920）年に春子宛てに送られたカードで、そのほかのカードは實が子爵となった大正14（1925）年以降に送られたものです。朝鮮総督時代に親交を深めた外国人宣教師からのものが多く、中には實が亡くなった後も春子夫人と交流が続いた人からのものもあります。

親交のあった宣教師 Frank Herron Smith 氏からのクリスマスカードを紹介するとともに、「子爵齋藤實傳 第二巻」に掲載された Smith 氏の一文をご紹介します。

「施政二十五周年記念祝賀の日であった。渡鮮した子爵は一市民として夫人同伴で自由に邪魔されることなく護衛もつれずに方々歩いて居た。年の経つと共に頭髮も霜を増した子爵を、朝鮮人はサンタクローズと呼び祖父として歓迎した。外人宣教師団及び京城在住外国人は子爵夫妻のために朝鮮ホテルで盛大な歓迎会を開いたが、監督牧師某は『吾々宣教師の多くが天国に入るか否かは疑わしいが、子爵は間違いなく天国に行き而も最前列に座られることは確かだ』と当然受けらるべき賞賛を捧げた《原文ママ》」

朝鮮において、實がサンタクロースのように歓迎され、多くの人から慕われていたことが窺えます。



クリスマスカードの数々



春子宛てに東洋英和女学校西洋教師一同から送られたカード



Frank Herron Smith 氏から送られたクリスマスカード

